

みさか白鳳(みさかはくほう)

登録番号：第2058号

育成者：北浦精次

登録年月日：平成元年9月19日

来歴：「白鳳」の枝変わり

登録者：御坂町農業協同組合（山梨県
東八代郡御坂町夏目原620）

特性

■栽培特性

樹姿は中間で、樹の大きさは「白鳳」程度、樹勢は中である。枝梢の太さおよび節間長は中である。花芽の着生は多く、花は普通咲き、花の大きさは中で花粉を有し結実は安定している。葉身の形および葉の大きさは中である。開花期は中で育成地において4月上旬である。生理落果および核割れの多少は少、裂果は中、果実の日持ちはやや良である。成熟期は満開から91～100日の範囲にあり、育成地において7月上旬から中旬で「日川白鳳」に続いて収穫できる早生品種である。

■果実特性

果形は円形で、果頂部の凹は中、果皮の地色は乳白、果皮の着色は多く、着色の濃さはやや濃、着色の形はぼかし、着色は容易である。果実の大きさは大で250g以上になる。

果肉の色は乳白、果肉内の着色は少、核周囲の着色は微である。果肉の粗密は中、果肉繊維の多少はやや多、果皮の剥皮性はやや難である。果汁の多少は多、甘みはやや多く13度くらいになる。酸味は少である。核は粘核、形は短楕円、大きさは中、核面の粗滑は中である。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

灰星病など果実腐敗病については他の品種と大差がないため慣行の防除でよいと思われる。

花芽の着生、花粉量ともに多く、結実が安定しているので摘らい、摘花を実施し、着果調節が必要となる。樹上部の強勢枝の果実に核割れがやや発生するので摘果は果実の生育に合わせて2～3回に分けて実施する。着色が容易であるため、着色にまどわされて未熟果を収穫しないよう着色管理や熟度に注意する必要がある。無袋果には裂果が見られるため有袋栽培が条件となる。

■地域適応性

本品種は、樹勢が適度で結実が安定しており、梅雨期に成熟する品種としては着色、糖度、食味とも安定している。このため栽培の適地は広いと思われる。袋かけが必要となるが、同時期に熟す「八幡白鳳」より着色が容易であること、品薄となる「日川白鳳」と「白鳳」の間に熟すことなどから今後の増産が見込まれる。本品種は平成7年に山梨県の奨励品種に選定されている。

(猪股雅人)